

知床の絶滅危惧植物は何種類？

知床がユネスコの世界自然遺産の候補になったことから知床の自然について興味をもった方が随分と増えたようです。博物館にも自然について知りたいという問い合わせが増えていきます。表題にあげた質問も最近多かったものです。テレビや新聞の記事を眼にして「実際のところ知床の自然はどれくらい貴重なんだろう？」と疑問に思った方もいたでしょう。「絶滅危惧生物の数」はそれに答える具体的な指標の一つなのです。

自然界にはさまざまな生き物がいますが、そのなかにはもともと狭い範囲にしかないものや、最近数が大きく減ってしまったものもあります。数が大きく減ってしまい、このままではいなくなってしまう恐れのある種のことを絶滅危惧種といいいます。減っている原因の多くは人間の開発行為によるものです。

絶滅危惧種の多くはちょっとした環境の変化に耐えられない種で、昔と変わらぬ自然の営みがある環境でないと生活できません。それゆえ絶滅危惧種の多い地域は昔ながらの自然度の高い地域だといえます。と言っても必要な環境は種によって千差万別。植物で言えば毎年の大増水が必要、いつも変わらぬ低温の水が欲しいなど…、どれも好みが贅沢ですね。「夏痩せて嫌いなものは嫌いななり」という千代女の句を思い出します。

知床でこれまでに知られている絶滅危惧植物種数は表のようになります。計95種類、知床で現在確認されている維管束植物が約840種あるので9種に1種が絶滅を危惧されている植物ということになります。これが多いのか少ないのかはここでは触れません。ここでは表の内容について解説することにしましょう。まず同じ絶滅危惧種でも、その絶滅の危険性から最も危険な「CR」を筆頭に4種類に分けられています。この4種類は、名称や基準が人によって少しずつ違うため、比較するときに困ることがしばしばです。しかし「どういう植物が絶滅危惧なのか」というのは案外難しい問題で、今でも論争が絶えません。例えば昔から少ない数しか生育していない種（ランの仲間に多い）の判定は悩ましいものです。

表. 知床半島の絶滅危惧植物種数

環境庁レッドデータブック (2000年版)				
絶滅危惧IA類 CR	絶滅危惧IB類 EN	絶滅危惧II類 VU	準絶滅危惧 NT	
4	43	23	1	71
北海道レッドデータブック (2001年版)				
絶滅危機種 CR	絶滅危惧種 EN	絶滅危急種 VU	希少種 R	
1	16	7	31	55
4	56	28	32	合計95

また、どの地域を対象にするかで同じ種の判定でも大きく異なってきます。日本全体で考えた環境庁（当時）版と北海道版のレッドデータブックでは内容が大きく違います。これは環境庁の合計71と北海道の合計55を合わせた数が95であることから推測できるでしょう。この2つのレッドデータブックには共通種が31種しかないのです。これは日本全体では少ないのにもかかわらず北海道には普通にあるものや、その逆のものがたくさんあるからです。参考にIUCNによる世界版（<http://www.redlist.org/>）を見ると、リストアップされたもので知床にあるのはなんとカツラのみ。カツラは日本でも北海道でも絶滅危惧の判定をうけておらず、まさに「ところ変われば品変わる」というやつでしょう。

ともあれ、これら絶滅危惧種が多く残っている環境なら昔と変わらぬ旨い空気と水があって、そんなところではヒトも本当の豊かな暮らしができるに違いない、というのが絶滅危惧種を保護する大きな理由でした。良い環境で生活できる可能性を、絶滅危惧種の存在によって推定するわけです。ところが手段と目的を取り違え、開発行為にあたっては絶滅危惧種さえ生き残っていればよいのだ、と植物なら移植を行う事例も一時よく耳にしました。しかしそれは自然保護の主旨とずれているばかりか、もともとその植物がいなかった地域に移植を行えば定着する確率は低く、移植先にもともとその植物がいた場合には遺伝子汚染を引き起こす可能性さえあります。本末転倒とはこのことでしょう。ただしどれが本でどれが末かを見通すのはいつもなかなか難事なのですが。（内田）

◆◆博物館年末年始休館のお知らせ◆◆

12/29(月)～1/5(月)まで休館致します。
新年は1/6(火)より開館です。

発行 斜里町立知床博物館協力会 2003.12.15
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>